

日本人のグローバル化は 進んでいる？

日本証券アナリスト協会 常務理事
渥 美 恭 弘



日本人はグローバル化が遅れている国民・民族であり、そこを何とかしなければいけないと何十年もずっと思ってきた。

これまでの国際機関や留学での経験、海外旅行の際の経験でもそう感じるが多かった。ここで言う「グローバル化」とは、「国際化」と同じ意味で使っているが、日本人一人ひとりの個人についての「グローバル化」である。具体的に分かりやすく言えば、①異文化の人を理解すること、②自分の文化を異文化の人に理解してもらうこと、③これらの相互理解に基づき様々な分野で協力していくこと、であり、「異文化との相互理解」といった意味合いである。

私が何故そう思ってきたかということ、国際政治学者の故ハンティントン教授が言うように、世界の8大文明の中で、日本だけが1国で1文明を構成していて、極めてユニークであり、周りの国は全て別の文明であるので、日本人は外国人とうまく付き合えない性格だと思っていたからだ。

日本人は、過去、中国や西欧から「外国文化」を取り入れることには、「和魂漢才」、「和魂洋才」という形で巧みに成功してきたが、「外国人」を国内に受け入れることには拒絶反応を示してきた。自らが縄文人と弥生人の混血であるにもかかわらずだ。逆に、外国に住む日本人も「日本